

2018年1月15～16日 アクション資料

JNN世論調査、安倍改憲、沖縄、政局

JNN 世論調査 (1月13～14日定期調査) から 内閣支持率

安倍内閣を非常に支持できる 7.3% (前回12/2、3調査
比較-1.6PT)
ある程度支持できる 47.3 (〃+3.5)
あまり支持できない 32.8 (〃+2.9)
まったく支持できない 11.1 (〃-4.7)
NA、わからない 1.5 (〃-0.1)

政党支持率

自民党 33.8% (前回比較-1.9PT)
立憲民主党 11.3 (〃+1.5)
共産党 3.5 (〃-0.2)
公明党 3.3 (〃+0.2)
維新の会 1.8 (〃+0.7)
民進党 1.2 (〃±0)
希望の党 0.6 (〃-0.4)
社民党 0.4 (〃-0.3)
自由党 0.1 (〃-0.1)
その他の党 0.8 (〃-0.1)
支持政党なし 41.3 (〃±0)
NA、わからない 1.9 (+0.5)

野党3党の統一党派結成は

賛成 29%
反対 47
NA、わからない 24

日本国憲法を改正すべきか

改正すべき 42%
改正すべきでない 43
NA、わからない 15

9条に自衛隊を明記するという安倍首相の考えに

支持する 44%
支持しない 44
NA、わからない 12

首相 国民投票の時期 衆参の憲法審査会で審議を NHK1月15日 19時28分



ブルガリアを訪れている安倍総理大臣は同行の記者団に対

し、憲法改正の是非を問う国民投票を国政選挙と同時に行うかどうかについては、衆参両院の憲法審査会で審議が行われることに期待を示しました。また、自民党総裁選挙について、「閣内にあろうがなかろうがわれこそはと思う人は手を上げていただければよいと思う」と述べました。

この中で、安倍総理大臣は、憲法改正の是非を問う国民投票を参議院選挙など国政選挙と同時に行うことについて、「国民投票は国会の議決した期日に行うこととなっている。投票日なども憲法審査会において議論いただくものと考えている」と述べました。そのうえで、「国民投票をどういう形で行うかは、さまざまな議論があると思う。国民の声もあると思う。そういうことを踏まえて審議が行われると思う」と述べました。

また、ことし9月に予定される自民党総裁選挙への対応について、「雪がとけて木々の芽が吹き出す、そして緑が深くなってきた頃、考え始めなければいけないのかなと思うが、まずは選挙で約束したことを1つ1つ実行していくことが私たちの責務だ」と述べました。

さらに「自民党には豊富な人材、うんかのごとく存在するので、それぞれの皆さんがわれこそはと手を上げていただければいいと思う。閣内にあろうがなかろうが、われこそはと思う人は手を上げていただければよいと思う」と述べました。

一方、安倍総理大臣は、平成に代わる新たな元号の発表時期や方法について、「発表手順は、発表の形態も含めて、平成の元号を定めた手順を踏まえていきたい。平成の時は、当時の小淵官房長官が発表されたわけでもあるから、そうしたことも踏まえていきたい」と述べました。

そして「いつ発表するかは白紙だが、国民生活の影響を考えてその時期を考えていきたい。いずれにしろ新しい元号は、昭和、平成がそうであったように、広く国民に受け入れられ、国民生活の中に深く根ざすものとしていきたい」と述べました。

このほか、安倍総理大臣は、慰安婦問題をめぐる日韓合意について、「これはもうすでに最終的に解決したとわれわれは考えている。政権が変わっても、国と国との約束を守っていくことは、国際的、普遍的な原則だ。この原則を崩しては国と国との関係は成り立たない」と述べました。そのうえで「韓国側が一方向的にさらなる措置を求めていることは、この原則に照らして全く受け入れることはできない。われわれは、すでに約束したことはすべて誠意を持って実行しており、韓国側にも同様に約束を実行することを強く求め続けていきたい」と述べました。

また来月、韓国で開催するピョンチャンオリンピックの開会式に出席するかどうかについて、「衆議院選挙を終えた後の国会なので、しっかりと用意して臨まなければならない。また一日も早い予算案の成立こそが最大の経済対策なので、しっかりと対応しなければならない。国会日程を見ながら

よく考えていきたい」と述べました。

首相、閣内からの出馬容認 今秋の自民総裁選

日経新聞 2018/1/15 20:00

【ソフィア＝山崎純】欧州を歴訪している安倍晋三首相は15日午前（日本時間同日夕）、ブルガリアの首都ソフィアで同行記者団と懇談した。9月の自民党総裁選について閣僚の出馬も否定しない考えを示した。自身の立候補は「雪が解けて、木々の芽が吹き出し、緑が深くなってきた頃、考え始めないといけない」と述べるにとどめた。



ブルガリアのボリスフ首相(右)との共同記者発表を終え、握手する安倍首相（14日、ソフィア、代表撮影・共同）＝共同

野田聖子総務相が総裁選への出馬に意欲を示していることに関連し「閣内であろうがなかろうが、手を挙げてもらえばいい」と指摘。閣僚でも昨年の衆院選公約の実現に努めるなら立候補を問題視しない考えを明らかにした。「若い人たちもその時期に備えしっかり経験、実績、見識を培ってほしい」と語った。

従軍慰安婦問題を巡る15年の日韓合意については、韓国側に履行を強く求めた。「政権が変わっても国と国との約束を守っていくことは国際的、普遍的原則だ」とし、元慰安婦への謝罪など追加措置も拒否した。

韓国政府が要請している平昌冬季五輪への出席は22日に召集する通常国会の日程を見て判断する意向を強調した。「一日も早い予算の成立こそ最大の経済対策だ。しっかり対応しなければならず、よく考えていきたい」とも述べた。

憲法改正の国民投票の時期は投票の期日を国会が議決するのを踏まえ、国会の憲法審査会の議論に委ねる意向を示した。

辺野古埋め立て、伸びる護岸 知事・市長は阻止訴え

朝日新聞デジタル小山謙太郎 2018年1月15日21時01分

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への移設計画で、予定地の海域を埋め立てるための護岸が着々と造成されている。沖縄防衛局によると、辺野古崎南側では海岸から沖に向けて「N5」と呼ばれる護岸が約2

70メートルできており、その西に「K1」が約210メートル伸びる。両護岸の先端から、海を囲うように別の護岸が造られる予定。



移設に向

けた工事が進む米軍キャンプ・シュワブの海岸に突き出た護岸「N5」＝14日午前10時34分、沖縄県名護市、朝日新聞社機から、日吉健吾撮影



移設に向け

けた工事が進む米軍キャンプ・シュワブの海岸に突き出た護岸「K1」＝14日午前10時33分、沖縄県名護市、朝日新聞社機から、日吉健吾撮影



政府は、今夏以降に土砂の投入を目指す。翁長雄志（おながたけし）知事や名護市の稲嶺進市長は移設阻止を訴え続けており「絶対にあきらめない」としている。（小山謙太郎）

保護者が沖縄防衛局に対策要請 米軍ヘリ窓落下

朝日新聞デジタル小山謙太郎 2018年1月15日13時05分

沖縄県宜野湾市の普天間第二小学校の校庭に、米軍ヘリCH53Eが窓を落とした事故で、同小PTA会（徳村篤志会長）は15日、沖縄防衛局を訪れ、米軍機を監視する

カメラの設置などを求める要請書の中嶋浩一郎局長に提出した。



中嶋浩一郎・沖縄

防衛局長（左）に6項目の要請書を手渡す徳村篤志・普天間第二小PTA会長＝15日午前9時3分、沖縄県嘉手納町、小山謙太郎撮影

米ヘリ部品、もし我が子に落ちたら 宜野湾、心労の日々
要請書は6項目で、昨年末にあった保護者会の意見をPTA会がまとめた。そのうち上空を監視するカメラや監視員の配置は、今月から防衛局が実施している。要請ではさらに、屋根つき避難設備を校庭に設置することなどのほか、学校側と防衛局、米軍が集まって安全対策について確認しあう場も求めている。

米軍機の学校上空の飛行について、米軍は「最大限、可能な限り避ける」とだけ回答している。飛行禁止を求めている学校は、体育の授業や昼休みの校庭使用を今も中止している。

徳村PTA会長は「最低限、実…

米軍飛行停止申し入れを＝菅官房長官に要請－公明

公明党の井上義久幹事長は15日の政府・与党協議会で、沖縄県内で米軍ヘリコプターの不時着などのトラブルが相次いでいることに触れ、原因究明と再発防止策確立までの同型機の飛行停止を米軍に申し入れるよう要請した。公明党によると菅義偉官房長官は「承った」と応じたという。

ただ、菅長官はこの後の記者会見で、要請への対応を問われ、「しっかり再発防止策を講ずるよう米側に引き続き強く求めていきたい」と述べるにとどめた。（時事通信2018/01/15-17:47）

強襲艦ワスプ、佐世保配備＝対北朝鮮、ステルス機運用－米海軍



佐世保基地（長崎県佐世保市）に配備された米海軍の強襲揚陸艦「ワスプ」＝14日、佐世保市沖（米海軍提供）

米海軍の強襲揚陸艦「ワスプ」（約4万トン、全長約253メートル）が15日までに、佐世保基地（長崎県佐世保市）に配備された。ワスプは、岩国基地（山口県）に配備されている最新鋭ステルス戦闘機F35Bを艦載機として運用する。対北朝鮮などで有事即応態勢を強化する狙いがある。

ワスプは14日に佐世保基地に到着。米海軍は「ワスプの到着は地域の安全と安定のために同盟国へのわれわれの関与をより深める」などとしている。

ワスプは海兵隊員約1600人を運ぶことが可能。在沖縄海兵隊の有事即応部隊、第31海兵遠征部隊と連携して上陸作戦などの訓練を行う。輸送機オスプレイも搭載できる。佐世保基地到着後、同基地に配備されている強襲揚陸艦「ボノム・リシャル」と交代する。（時事通信2018/01/15-16:19）

安保法「違憲部分を削除」＝統一会派へ合意文書－民・希



統一会派結成をめぐる協議後に取材に応じる民進党の増子輝彦幹事長（中央右）と希望の党の古川元久幹事長（同左）＝15日午前、東京都内のホテル

民進党と希望の党は15日午前、東京都内のホテルで幹事長・国対委員長会談を開き、衆参両院で統一会派を結成する方針を確認した。この後、基本政策などに関する合意文書を発表。焦点の安全保障関連法の扱いについて「違憲と指摘される部分の削除を含め、必要な見直しを行う」と記した。

民進の増子輝彦幹事長は記者団に「しっかり安倍政権と対峙（たいじ）していく態勢をつくる」と強調。希望の古川元久幹事長も「働き方改革などで思いを共有する野党が大きな固まりとなる動きの第一歩だ」と語った。（時事通信2018/01/15-10:44）

民・希、統一会派へ手続き難航も＝玉木代表、分党に言及



民進党との統一会派に関する協議に臨む（左から）希望の党の松沢成文参院議員団代表、玉木雄一郎代表、古川元久

幹事長、松原仁代議士会長＝15日午後、国会内

民進党と希望の党は15日、統一会派結成に向けて、それぞれ党内了承の手続きに入った。通常国会の22日召集を控え、週内の了承取り付けを目指す。ただ、両党内には統一会派への異論が強く、手続きは難航が予想され、両党は分裂含みの様相を呈している。

希望の玉木雄一郎代表は15日の幹部協議で、役員会を16日に開いて手続きを進める方針を説明。会派結成に反対している松沢成文参院議員団代表に対し、「分党」も含めて対応する考えを伝えた。松沢氏は「(民進党との合意は)衆院選公約をほごにするもので、絶対に受け入れられない」と反対し、日本維新の会との統一会派を提案した。

民進、希望両党の統一会派が結成されれば、実質的勢力は衆院65人、参院45人となり、野党第1党の立憲民主党(衆院54人、参院6人)を上回る。ただ、離党者が出る可能性も取り沙汰されており、情勢は流動的だ。(時事通信 2018/01/15-22:17)

希望代表、分党含め対応 統一会派反対の参院議員に 共同通信 2018/1/15 19:43

希望の党の玉木雄一郎代表は15日、松沢成文参院議員団代表と国会内で会談し、民進党と合意した統一会派結成を巡り意見交換した。松沢氏は、民進とは安全保障関連法や憲法改正に関する考え方が異なるとして反対を表明。玉木氏は、合意の上で複数の党に分割する「分党」を含めて対応を協議する意向を伝えた。党幹部が明らかにした。民進の小川敏夫参院議員会長も会派結成に消極的な姿勢を示すなど、双方で異論が相次いだ。

希望、民進はそれぞれ16日に幹部会合を開催。民進は17日も両院議員総会と地方組織の幹部を集めた会合を開いて意見集約を進め、両党の党首会談による週内の最終決定を急ぐ。

希望と民進が基本政策合意 統一会派に向け、近く党首会談へ

共同通信 2018/1/15 14:13

協議を終え、取材に応じる希望の党の古川幹事長(左)と民進党の増子幹事長＝15日午前、東京都内

希望の党の古川元久、民進党の増子輝彦両幹事長は15日午前、東京都内で会談し、統一会派結成へ向け基本政策を含む合意文書を取り交わした。希望の玉木雄一郎、民進の大塚耕平両代表が週内に改めて会談し、正式に確認したい意向だ。統一会派が実現すれば、衆院で立憲民主党を上回り、衆参両院で野党第1会派になる。野党側を代表して与党側と国会日程を協議する。

衆院の会派勢力は、希望51人、民進系「無所属の会」14人。仮にそのまま統一会派を組めば、立民の54人を超える。

希望・民進、統一会派へ政策合意 安保法、違憲とせず 朝日新聞デジタル 2018年1月15日 11時07分

希望の党と民進党の幹事長、国会対策委員長は15日午前、東京都内で会談し、22日召集の通常国会までの統一会派結成に向けて基本的な理念や政策で合意した。両党で姿勢が異なる安全保障関連法は「違憲」と断定しない文言で折り合ったが、ともに反対派を抱える党内調整は難航が予想され、分裂含みの展開となる可能性がある。

合意文書では安保法について「違憲と指摘される部分を削除することを含め、必要な見直しを行う」とした。違憲と断定しないことで、希望内の「安保法は合憲」(参院幹部)との立場の議員らに配慮した。

希望の古川元久、民進の増子輝彦両幹事長は会談後、会派結成に向けた党内手続きを週内に終わる方針を記者団に示した。統一会派が実現すれば衆参とも野党第1会派となるが、民進内では「立憲民主党との会派結成を優先すべきだ」(中堅)との声が高く、希望内でも参院議員が反発している。

希望執行部、分党を提案へ 民進と統一会派、党内に異論 朝日新聞デジタル 2018年1月15日 22時57分



野党第1会派をめぐる

3会派の構図

民進党と希望の党は15日、基本政策に関する文書を交わし、国会での統一会派結成に正式合意した。実現すれば、衆院で立憲民主党の会派を数で上回り、衆参両院で野党第1会派になる。両党は17日にも、全所属議員を対象にした会合をそれぞれ開き、了承を得る段取りを描くが、希望執行部は異論があることを踏まえて分党を提案する見通しで、いずれも分裂含みだ。

民進・希望、どうなる統一会派結成 両党に根強い反対論
民進の増子輝彦、希望の古川元久両幹事長らは東京都内

で会談。統一会派結成に向けた合意文書づくりで焦点だった安全保障法制への対応は、「違憲と指摘される部分を削除することを含め、必要な見直しを行う」との文言で折り合った。増子氏は記者団に、統一会派を実現したうえで、新党へ移行する可能性にも言及した。

だが、15日の民進の執行役員会では、小川敏夫参院議員会長が「希望は集团的自衛権を容認している。何が違憲か明示すべきだ」と合意内容に懸念を表明。同日夜には約10人の民進議員と都内で会合を開き、会派結成阻止で一致した。民進議員らを中心とした衆院会派「無所属の会」（岡田克也代表）にも反対論がある。

一方、希望の松沢成文参院議員団代表は玉木雄一郎代表との協議で、「総選挙の公約を反故（ほご）にすることになる。（民進との統一会派は）絶対に受け入れられない」と主張。執行部側は分党で沈静化を図る構えだが、民進内の情勢次第では会派構想自体が頓挫する可能性もあり、民進の動向を見極める方針だ。

民進と希望、統一会派合意...党内に依然反対論も

読売新聞 2018年01月15日 13時45分



会談を終え、記者の質問に答える民進党の増子幹事長(右)と希望の党の古川幹事長(15日午前、東京都千代田区)＝飯島啓太撮影

民進党と希望の党は15日午前、東京都内のホテルで幹事長・国会対策委員長会談を開き、統一会派結成で正式合意した。

両党は22日召集の通常国会に間に合うよう、党内手続きに入るが、両党内とも反対論があり、難航が見込まれる。実現すれば、衆参両院で野党第1会派になる可能性がある。

会談では基本政策などの合意文書がまとまった。焦点の安全保障関連法については「違憲と指摘される部分を削除することを含め、必要な見直しを行う」という表現で折り合った。憲法改正を巡っては「現行憲法の国民主権・平和主義・基本的人権の尊重という三原則をより担保する観点から議論を行う」とした。

統一会派結成は、将来的な合流を目指しており、合意文書では「政権交代可能な政治体制の構築に全力を挙げる」とした。民進の増子幹事長は会談後、両党の合流について

「統一会派の中で機運ができるなら結果としてある」と述べた。

ただ、岡田克也・元代表が率いる民進党籍の衆院議員らの会派「無所属の会」には、希望との統一会派に反対が強い。希望の細野豪志衆院議員、松沢成文参院議員らも統一会派には反対の姿勢で、両党とも分裂含みとなっている。

統一会派 希望の玉木代表「分党も」 参院から反対論
毎日新聞 2018年1月15日 23時52分(最終更新 1月16日 01時32分)



民進党との統一会派問題を巡り協議する(左から)松沢参院議員団代表、玉木代表、古川幹事長＝国会内で2018年1月15日午後2時31分、宮本明登撮影

民進党と希望の党の幹事長らは15日、統一会派結成に向けた合意文書をまとめた。しかし、両党の参院議員には反対論が強く、正式合意の見通しは立っていない。希望の党の玉木雄一郎代表は分党を含めて対応する方針を参院側に伝えた。

合意文書には、焦点の安全保障法制について「違憲と指摘される部分を削除することを含め、必要な見直しを行う」と盛り込まれた。民進党は「違憲部分の削除」を求めているが、「違憲とされる部分」に弱めて妥協した。

それでも、希望の党の幹部会合では松沢成文参院議員団代表が「理念、政策の違う党と会派を組むことはあり得ず、絶対反対だ」と改めて表明。「より考えの近い日本維新の会や無所属と組んだほうがやりやすい」と述べ、同党の参院議員3人で維新などとの連携を探る意向を示した。

これを受けて、統一会派に積極的な玉木氏は松沢氏らと会談し、党内が一致できない場合は分党も辞さない考えを伝えた。

松沢氏は15日夜、衆院側で安保法制を容認している長島昭久政調会長や細野豪志憲法調査会長らと東京都内で会い、今後について意見交換した。終了後、長島氏は「民進党の動き次第だ。動向をしっかりと見極める」と記者団に語った。

民進党では小川敏夫参院議員会長が15日、「希望とだけ先行することは、ベストの形を遠ざける。今すぐ賛成とは言えない」と記者団に表明した。参院民進党が立憲民主党抜きで希望と会派を組めば、離党議員が出る可能性が高い。

民進党は16日に常任幹事会、17日に両院議員総会を開く。希望の党も16日の役員会で対応を協議する。【光田宗義、真野敏幸】

幸]

民進と希望 統一会派、参院で異論 正式合意、見通せず
毎日新聞 2018年1月15日 22時04分(最終更新 1月16日 06時08分)



会談後の囲み取材で、質問に答える民進党の増子輝彦幹事長（中央右）と希望の党の古川元久幹事長（中央左）＝東京都千代田区で2018年1月15日午前9時10分、宮武祐希撮影

民進党と希望の党の幹事長らは15日、東京都内で会談し、衆参両院での統一会派結成に向けた合意文書を交わした。これに対し、両党の参院側からは異論が噴出。両党執行部は週内に党内手続きを終え、正式合意を目指しているが、見通しは立っていない。

民進系3党の会派所属議員数	衆院	参院	※15日正午時点。参院で立憲は会派結成を届け出ていないが、既に民進を離党して入党した5人を反映。民進衆院は「無所属の会」の人数
立憲民主党	54	6	
民進党	14	42	
希望の党	51	3	

民進系3党の会派所属議員数

合意文書は、焦点の安全保障法制について「違憲と指摘される部分を削除することを含め、必要な見直しを行う」とすることで折り合った。民進党は「違憲部分の削除」を求めていたが、「違憲とされる部分」に弱めて妥協した。

しかし、小川敏夫参院議員会長は15日、「希望とだけ先行することは、ベストの形を遠ざける。今すぐ賛成とは言えない」と記者団に語った。参院民進党には、立憲民主党抜きで希望と会派を組めば離党すると公言する議員が複数いるため、合意文書を簡単にはのめない事情がある。

一方、希望の党の幹部会合では松沢成文参院議員団代表が「理念、政策の違う党と会派を組むことはあり得ず、絶対反対だ」と表明。松沢氏は「より考えの近い日本維新の会や無所属と組んだほうがやりやすい」と述べ、同党の参院議員3人は維新などとの連携を探る意向を示した。

これに対し、玉木雄一郎代表は15日、松沢氏らと会談。複数の党に分割する「分党」を含めて対応を検討する考えを伝え、参院側をけん制した。

民進党は16日に常任幹事会、17日に両院議員総会をそれぞれ開く。同党内では衆院会派「無所属の会」も希望との統一会派に消極的で、党内論議は紛糾する可能性がある。希望の党も16日の役員会で対応を協議する。【真野敏

安保法は見直し 民進・希望、統一会派へ合意文書

日経新聞 2018/1/15 10:00

民進党の増子輝彦、希望の党の古川元久両幹事長は15日午前、都内のホテルで会談し、統一会派の結成に向けた合意文書を取り交わした。安全保障関連法については「違憲と指摘される部分を削除することを含め、必要な見直しを行う」と明記した。実現すれば衆参両院で野党第一会派になる。

統一会派結成で合意し、記者の質問に答える民進党の増子幹事長(右)と希望の党の古川幹事長(15日午前、東京都千代田区)

両党は22日の通常国会召集に向けて党内手続きを進める方針だが、党内には異論が残っており調整は難航する可能性がある。

産経新聞 2018.1.15 20:02 更新

希望の党、「安保」「憲法」で譲歩 民進党と統一会派結成で合意 松沢成文氏は「分党」目指す



民進党との統一会派に

関する協議に臨む、(左から)希望の党の松沢成文参院議員団代表、玉木雄一郎代表、古川元久幹事長＝15日午後、国会内(斎藤良雄撮影)

民進党の増子輝彦、希望の党の古川元久両幹事長は15日、東京都内で会談し、衆参両院での統一会派結成に向けた合意文書を交わした。隔たりが大きかった安全保障政策や憲法をめぐる、希望の党が歩み寄ることで折り合った。統一会派に反対する松沢成文参院議員団代表は、政党交付金を受け取れる「分党」を目指す。ただ、分党に必要な5人の国会議員が集まるかどうかは微妙とされている。

合意文書は、安保法制について「違憲と指摘される部分を削除する」と定め、現行法制を実質的に容認した希望の党の衆院選公約との矛盾が生じた。憲法に関しても「9条を含む憲法改正論議」を明記した希望の公約から後退、「立憲主義に基づき憲法の議論を行う」との表現で決着した。

希望の党の玉木雄一郎代表は15日、衆参両院の代表者として松原仁代議士会長と松沢氏に会い、会派結成について意見聴取した。松原氏は了承したのに対し、松沢氏は「絶対に受け入れられない。公約をほごにすることになる。有権者への裏切りだ。政党の自殺行為だ」と激しく拒否した。

また、松沢氏は参院で日本維新の会と会派を組む意向を示したが、玉木氏は「政党として一致団結してやりたい」

と譲らなかった。その上で、玉木氏は松沢氏に、分党を含めて対応を協議する意向を伝えた。

希望の党では、松沢氏と中山恭子元拉致問題担当相、行田邦子氏の参院全員と衆院の中山成彬元国土交通相が民進党との会派結成に強く反対している。

松沢氏は玉木氏と会談後、中山恭子氏や行田氏のほか細野豪志憲法調査会長、長島昭久政調会長、笠浩史衆院議員と、国会近くのホテルに集まり、今後の対応を協議した。結党時メンバーである6人にとって民進党への「先祖返り」は自己否定に等しい。

出席者によると、笠氏が「政策合意の文言は公約と違うが、中身は変わっていないと理解していいか」と発言すると、長島氏は「変わらない」と応じた。それでも松沢氏は、民進党との統一会派は受け入れないとし、「分党も考えたい」と表明した。

民進党内にも、同党出身者の一部を「排除」した希望の党との連携への不満が高まっており、離党ドミノが加速しそうな様相だ。小川敏夫参院議員会長ら離党を模索する約10人の議員が15日夜、都内で会合し、今後の対応を協議した。

産経新聞 2018.1.15 11:20 更新

民進・希望 統一会派結成へ 合意文書かわす 安保関連法は「違憲部分を削除」



会談を終え取材に応じる民進

党の増子幹事長（左）と希望の党の古川幹事長＝14日午後、東京都内

民進党の増子輝彦、希望の党の古川元久両幹事長らは15日午前、東京都内で会談し、統一会派結成に関する合意文書をかわした。安全保障関連法に関する文言は「違憲と指摘される部分を削除する」などと、調整した。統一会派が実現すれば衆参両院で野党第1会派となる。

増子氏は会談後、「安保政策で希望の党には譲歩してもらった。力を合わせて安倍政権に対峙（たいじ）したい」と語った。古川氏も「認識を共有する野党が大きな固まりとなる」と述べ、会派結成の必要性を強調した。

両氏は22日の通常国会召集に向けて党内手続きを進める考えだが、両党には会派結成をめぐる、異論も根強く難航は必至だ。

また、民進党の大塚耕平代表は同党の「新党移行」を掲げており、増子氏は「統一会派を充実させ、国民の信頼を得れば、結果としてその方向の可能性もある」と言及。両

党による統一会派が新党に発展する可能性についての認識も示した。

希望「分党」も検討 民進との統一会派結成は難航も

NHK1月16日 4時29分

民進党と希望の党の執行部は、今月下旬の通常国会召集に向け、統一会派結成のための党内手続きを進めることにしていますが、希望の党では、結成に反対する一部の議員が加わらないのはやむをえないとして、「分党」も検討されるなど、難航することも予想されます。

民進党と希望の党は、今月22日に通常国会の召集を控え、15日、幹事長らが会談し、衆参両院での統一会派結成に向け正式に合意文書を取り交わし、16日から、党内手続きを、本格的に進めることにしています。

しかし、民進党では、小川敏夫・参議院議員会長が、「問題点があるので、今すぐ賛成とは言えない」と述べたほか、「希望の党と2党だけの統一会派は認められない」という意見が、今も党内に根強くあります。

一方、希望の党では、松沢成文・参議院議員団代表が、玉木代表に、「民進党とは理念や政策が異なる」として、結成は受け入れられないと伝え、日本維新の会などと会派を結成したいという意向を示しました。

また、松沢氏らとともに党を立ち上げた細野・憲法調査会長も、統一会派結成に慎重なことから、15日夜、党幹部が、細野氏の説得に当たりました。

民進党と希望の党の執行部としては、通常国会の召集に間に合うよう、党内の了承を取り付けて、統一会派を結成したい考えですが、希望の党では、結成に反対する一部の議員が加わらないのはやむをえないとして、党を分ける「分党」も検討されるなど、難航することも予想されます。

参院・希望 「統一会派」拒否 両幹事長ら合意文書

毎日新聞 2018年1月15日 13時05分(最終更新 1月15日 13時05分)

民進党と希望の党は15日午前、国会近くのホテルで幹事長・国対委員長会談を開き、統一会派結成に向けた合意文書を交わした。しかし希望の参院側はその後の党執行部との協議で、統一会派を拒否すると伝えた。両党は週内に党首同士で合意内容を確認することを目指す、早速混乱が表面化した。

合意文書では、両党協議の焦点の安全保障法制について「違憲と指摘される部分を削除することを含め、必要な見直しを行う」と表現することで折り合った。民進は「違憲部分の削除」と提示していたが、「違憲」の単語を残しつつ、「違憲と指摘される部分」と表現を弱めて合意した。文書はほかに「安倍政権と厳しく対峙（たいじ）し、強引な国会運営には断固反対する」などの10項目。

希望の3人の参院議員は中山恭子氏ら保守的な議員で、

統一会派に消極的だった。民進党内でも衆院会派「無所属の会」が希望との統一会派に消極的で、両党の今後の党内手続きは難航が予想される。【真野敏幸】

希望 玉木代表 統一会派結成で「分党」含め対応協議

NHK1月15日 18時25分

希望の党の玉木代表や松沢成文参議院議員団代表らが会談し、松沢氏が、民進党との統一会派の結成は受け入れられないと主張したのに対し、玉木氏は、党を分ける「分党」も含めて対応する考えを伝え、16日、協議することになりました。

民進党と希望の党は15日午前、両党の幹事長らが会談し、国会での統一会派の結成に向けて、安全保障関連法や憲法改正への対応など共有する基本政策などについて、合意文書を取り交わしました。

これを受けて、希望の党の玉木代表は、15日午後、国会内で松原仁代議士会長や松沢成文参議院議員団代表と会談し対応を協議しました。

この中で松原氏は、民進党との統一会派の結成を容認する考えを示しましたが、松沢氏は「民進党とは理念や政策が異なる」などとして、受け入れられないと主張しました。

これに対し玉木氏は、党を分ける「分党」も含めて対応する考えを伝え、16日の役員会で、民進党との統一会派の結成を協議することになりました。

民進党と希望の党との統一会派をめぐるっては、民進党内にも「希望の党との2党による統一会派は認められない」という意見があることから、統一会派を結成した場合は、両党から離党者が出るのではないかという懸念もあり、調整が難航することも予想されます。

産経新聞 2018.1.15 19:48 更新

自民・二階俊博幹事長、民進・希望の統一会派にエール 公明・大口善徳国対委員長は「理念や政策を大事に」と皮肉



政府与党連絡会議を終え会見する自民党の二階俊博幹事長＝15日午後、国会内(斎藤良雄撮影)

自民党の二階俊博幹事長は15日の記者会見で、民進党と希望の党が統一会派で合意したことに関し「与党と野党が一对一で議論し、意見をまとめていくのは理想の姿だ。

(民進と希望が)一緒になって議論できることは、収斂していく上で当然その方がいい」と述べた。「今後ともしっか

りやってくださいよ、とエールを送る」とも語った。

公明党の大口善徳国対委員長は15日の記者会見で、「それぞれの党内手続きを見守る」としつつも「(両党は)理念や政策を大事にされると思う」と述べ、政策面で妥協を重ね、統一会派結成を優先した両党を皮肉った。